

報 告

発達障害の早期発見のための5歳児健診に対する
保護者の意識調査

子 吉 知恵美

〔論文要旨〕

5歳児健診は発達障害児の早期発見・早期支援のために有用であることは先行研究により明らかにされているが、早期発見しても必要な支援に結びつかなければ有用とは言えない。今回の保護者への調査から、5歳児健診時に支援が必要であると判断されたケースに対しては、巡回相談や医療機関受診等の支援に結びついたと考える。また、保健師による、医療機関未受診者を含めた子どもと保護者に対する包括的な具体的支援方法については、今後の課題となった。

Key words : 5歳児健診, 発達障害, 早期支援, 継続支援, 早期発見

I. 緒 言

母子保健法第二章第十二条で、市町村は、次に掲げる者に対し、厚生労働省令の定めるところにより、健康診査を行わなければならないとし、「一、満一歳六ヶ月を超え満二歳に達しない幼児」、「二、満三歳を超え満四歳に達しない幼児」と、各自治体で実施されている1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の義務づけを行っている。また、第十三条で、第十二条の健康診査のほか、必要に応じ健康診査を行うことを謳っている¹⁾。ここで定められる乳幼児健診で、療育や支援の必要な子どもに対して、十分な対応がされず、就学後にはすでに二次的不適応を起こしているケースがある。また、健診では適切な指導がされなかった子どもが、幼稚園・保育所（以下、園とする）などの集団生活で発達障害に起因する不適応あるいは不適切な行動を顕著に表し、保育者も対応に苦慮している現状がある²⁾。

さらには、乳幼児期に発達障害の早期発見・早期支援

につなげる難しさを示唆している³⁾。

3歳児健診では、指摘されなかった子どもが、園などの集団生活で発達障害の問題が顕著になり、保育者が対応に苦慮するようになることから、発達障害の早期発見には5歳児健診が有用であると考えられる⁴⁻⁷⁾。

このような背景から、A県B市において、平成16年から、①子どもの健全な発育発達を支援していく、②3歳児健診では見極めにくいアスペルガー症候群、注意欠陥／多動性障害や学習障害（以下、ADHD/LDとする）などの早期発見を行う、③適切な医療に結びつけ、専門スタッフからの助言や、指導をもとに療育を実施する、④保護者とともに関係者、関係機関とネットワークを組み、支援体制を整備し、就学支援へ結びつけていく、などを目的として5歳児健診を実施している⁸⁾。

しかし、就学前に発達障害の早期発見・早期支援をするために5歳児健診が有用であることは報告されるが、保護者にとって5歳児健診がどのような意義があるのかについて、これらの研究だけでは、十分な説得

Caregivers' Attitude to Five-year-old Health Checkups for Early Detection of Developmental Disorders [2267]

Chiemi NEYOSHI

石川県立看護大学地域・在宅・精神看護学講座（研究職）

別刷請求先：子吉知恵美 石川県立看護大学地域・在宅・精神看護学講座 〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1

Tel : 076-281-8300 Fax : 076-281-8386

受付 10. 8. 16

採用 12. 1. 25

力はない。

乳幼児健診における保健師の関わりについては、都筑が主に1歳6か月児健診における熟練保健師が用いた看護技術について調査を行っている。この調査において、保健師が援助を行う前段階には、援助の対象者となる人に対して専門職の視点で客観的に見るだけでなく、対象者の表現からその主観的なものをも引き出して対象を理解していくという、異なった2つの思考が重要であり、これらの有無が、対象に対する援助の質と満足度を左右する因子のひとつであると考察している¹⁰⁾。

保健師が子どもや保護者に対してどのような関わりを行ったかについての調査はなされているが、保護者にとっての意義については調査されていない。

そこでわれわれは、発達障害児の早期発見・早期支援に関して、5歳児健診の保護者にとっての意義について質問紙調査を行ったので報告する。

II. 目的

5歳児健診を実施することで、子どもの発達障害を早期発見・早期支援し、保護者にとって5歳児健診がどのような意義を有しているか検討した。

III. 対象と方法

1. 調査対象

A県B市全小学校1年生～2年生(平成19年度時点)の保護者697名であった。

B市において、5歳児健診を開始された時に健診を受診した学年とその翌年の学年とした。

2. 調査期間

平成19年9月。

3. 調査方法

教育委員会子ども課母子保健係を通して実施した。調査用紙は教育委員会子ども課に集められ、家庭で封書したままの状態、調査者に返却された。

4. 調査内容(資料)

5歳児健診についての感想(設問1)、5歳児健診の結果とその後のフォロー体制に対する意識(設問2・設問4)、5歳児健診で指摘がなかったケースの入学後の様子で気になることの有無(設問3)、5歳

児健診により発達障害児を早期発見し早期支援につながられるか(設問5～6)、5歳児健診後の養育による子どもの変化(*保護者からみたお子さんの変化)、5歳児健診後に支援に結びつかなかった保護者の思い(設問7～8)、医療機関受診を勧められた時の受容について(設問9)、保護者の発達障害に対する認識(設問10～11)、および発達障害に関する情報の周知方法について(設問12)の8項目について調査した。

5. 分析方法

質問に対する回答を単純集計した。

6. 用語の説明

1) 児童デイサービス

B市では、平成17年4月に発達障害児の早期療育のための施設として設置された。ここでは、SST(Social Skills Training; ソーシャルスキルトレーニング)や集団生活への適応に向けた訓練が言語療法士や心理士、保育士などにより行われている。

2) 巡回相談

B市職員の心理士が、健診で経過観察と判断されたケースに対し、園に出向いて子どもの園生活の様子を観察し、医療機関受診や児童デイサービスの支援に移行する判断を行っている。保護者に対しては、必要時に面接などを行い、保護者支援を行うこともある。

7. 倫理的配慮

対象者へは、文書で研究目的と研究内容を説明し、協力を依頼した。また、調査結果は研究目的以外に使用しないことを約束した。調査への協力は任意であり、協力をしないことで不利益を被らないように配慮した。これらについて全保護者に書面で説明をした。

調査後、本学倫理審査にて承認を得た。

IV. 結果

1. 回収率

697名中、回答を得られたのは647名(92.8%)であった。すべてを有効回答とした。

2. 回答者概要(表1)

回答者は615名(95.1%)が母親であった。

平均年齢は、37.0±0.2歳であった。

表1 回答者概要 (n=647)

| | | n (%) | |
|---------|-----|-----------|-----------|
| 回答者概要 | 年 齢 | 10代 | 1(0.2) |
| | | 20代 | 27(4.0) |
| | | 30代 | 431(66.6) |
| | | 40代 | 166(25.7) |
| | | 50代以上 | 8(1.2) |
| | | 無回答 | 14(2.2) |
| 子どもとの関係 | 母 親 | 615(95.1) | |
| | 父 親 | 23(3.6) | |
| | 祖 母 | 2(0.3) | |
| | 祖 父 | 2(0.3) | |
| | その他 | 1(0.2) | |
| | 無回答 | 4(0.6) | |

3. 5歳児健診の結果

5歳児健診を受けた結果は、図1に示した。

全体に対して、次のような回答が得られた。「医療機関を受診することになった」が58名(8.9%)、「巡回相談を受けることになった」が55名(8.4%)であった。5歳児健診を受診し、巡回相談や医療機関受診の指示があった群は合わせて全体の17.3%であった。また、様子を見て必要時巡回相談を受けるように指示があった群を合わせると22.7%であった。

その他の具体的回答は、「他自治体からの転入のため5歳児健診を受けていない」が多数で、それ以外は5歳児健診以前から小児科を受診しているという回答であった。

4. 早期発見・早期支援について

1) 早期発見・早期支援に結びついたか

図1より、「巡回相談を受けることになった」、「医療機関を受診することになった」、「様子を見ながら必要時巡回相談を受けることになった」、「なんらかの指摘はされたが具体的指示なし」

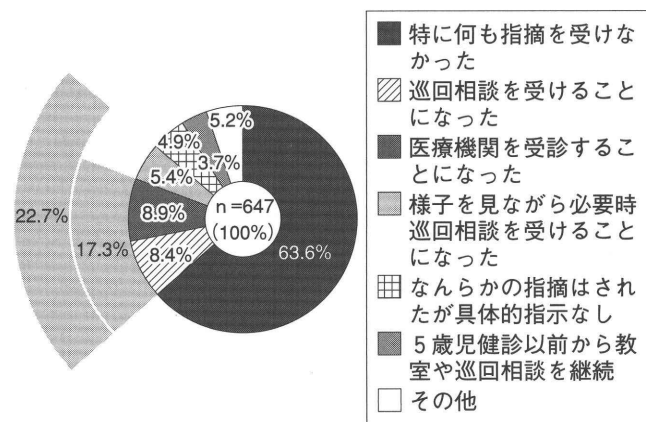


図1 5歳児健診受診の結果 (n=647)

指摘はされたが、具体的指示はなかった」を合わせた、なんらかの指示を受けた群 (n=180) で、5歳児健診が子どもの発達障害の早期発見・早期支援に結びついたかについて、次のような結果が得られた。

「早期発見・早期支援に結びついた」という回答が91名(50.6%)であった。一方、「早期発見はしたが、早期支援には結びつかなかった」は31名(17.2%)、「特に支援に結びつかず不満あり」は49名(27.2%)であった。

「早期発見はしたが、早期支援には結びつかなかった」と「特に支援に結びつかず不満あり」を合わせ、結果として、早期発見・早期支援に結びつかなかったとした回答は、80名(44.4%)であった(図2)。

2) 早期発見したが早期支援に結びつかなかった (n=31:複数回答)

早期支援に結びつかなかったという理由については、「具体的な支援が必要ない程度だった」が20名(43.5%)であった。「指摘をされただけで、結果として子どもの様子は変わらなかったように感じた」が12名(26.1%)であった。「思っていたほどの成果が得られなかった」が10名(21.7%)あった。また、少数意見ではあったが、「子どもの早期発見につながったかもしれないが、支援という点では保護者に対する支援は全くなかった」とする意見も4名(8.7%)あった。

3) 巡回相談を受けた結果 (n=55:複数回答)

「医療機関のリハビリに通うようになった」は42名(33.1%)、「児童デイサービスを利用するようになった」は39名(30.7%)であった。「教育相談員など就学についての相談ができるようになった」と「入学後も学校生活についての相談が継続的にできている」は

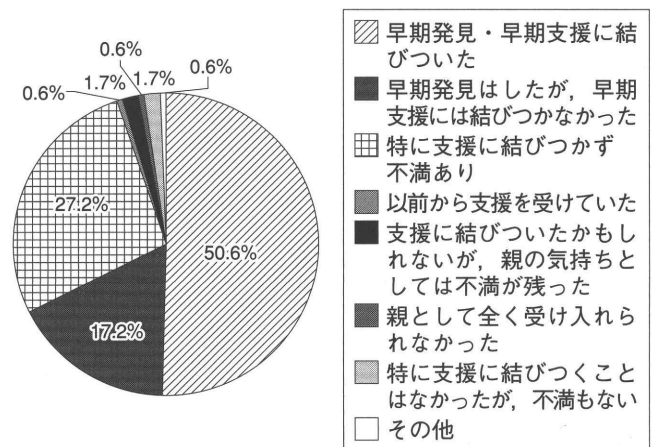


図2 5歳児健診で早期発見・早期支援に結びついたか (n=180)

合わせて44名(34.6%)であった。その他2名(1.6%)では、結果的に必要なかったと保護者が自己判断をし、支援が途絶えているケースと、もう一方のケースは保健センターから連絡がなくなったというケースであった。

5. 医療機関受診について (n=73)

1) 医療機関受診の有無

5歳児健診の結果、「医療機関を受診することになった」に加え、巡回相談などの支援を受けた後に医療機関受診の指示を受けた73名について、下記のような回答が得られた。

医療機関受診の指示に従ったかどうかについて、「指示通り受診した」保護者は61名(83.6%)であった。

「しばらくは指示に従わなかったが、しばらくして受診した」は、5名(6.8%)であった。これらを合わせて、5歳児健診において医療機関受診の指示を受け、結果として医療機関を受診したのは66名(90.4%)であった。

2) 受診しなかった理由 (n=4)

「1) 医療機関受診の有無」より、医療機関を受診しなかった4名に対し、その理由を聞いた結果、次のような理由が挙げられた。

「健診時の医師の説明に納得いかなかった」、「子どものことは保護者である自分が一番よくわかっているから、受診する必要がないと思った」、「批判されたように感じた」、「受診をした方がいいと感じたが、自分の中で受け入れられるまでに時間がかかるといった」という回答であった。

3) しばらくして受診した理由 (n=5)

「1) 医療機関受診の有無」より、医療機関受診の指示に対し、しばらくして受診をした5名に対して、しばらく時が経つ間に、どのようなことをきっかけとして医療機関を受診しようと思うようになったかについて、下記のような回答が得られた。

「すぐには受け入れられなかったが、落ち着いたたら子どものために受診しようという気持ちになった」、「最初は子どもの個性だと考え受け入れられなかったが、子どものためにも一度受診をしたほうがいいのかと考えるようになった」、「園から催促されたのでしぶしぶ受診した」という回答であった。

4) 受診した理由

「1) 医療機関受診の有無」より、医療機関受診の指

示にすぐに従った具体的理由を聞いた結果、下記のような回答が得られた。

「日頃から子どもの発達に関して心配していたから」、「園の先生から子どもの発達に関して言われることがあり、気になっていたから」、「よくわからないが、子どものためにいいなら受診をしようと考えたから」、「健診時の医師の説明に納得できたから」という回答であった。

5) 受診をした結果 (n=46)

医療機関を受診した結果については、次の通りである。

ADHD/LDは10名(21.7%)、アスペルガーは4名(8.7%)、吃音やサ行がはっきりしないなどの言語上の問題を指摘されたケースは16名(34.8%)であった。その他は16名(34.8%)であり、具体的にはアトピー性皮膚炎や肥満症など、発達障害とは関係のないものであった。

6. 発達障害受容機会になったか (n=232:複数回答)

5歳児健診で、なんらかの指摘を受けた子どもの保護者が、5歳児健診が子どもの発達障害を受容するきっかけになったかについては、表2の通りである。

「受け入れるきっかけになった」は、116名(50.0%)であった。「受け入れるまでには時間がかかったが、きっかけにはなった」は、26名(11.2%)、「発達障害を知るための情報交換の機会になった」は7名(3.0%)であった。結果として、5歳児健診が、子どもの発達障害を受容するきっかけになり、あるいは情報交換の場になったという回答は、149名(64.2%)であった。

一方、「受け入れるきっかけにはならなかった(指摘されただけのような気がする)」は、72名(31.0%)であった。

表2 5歳児健診による発達障害受容機会の有無
(n=232:複数回答)

| | n (%) |
|------------------------------------|-----------|
| 受け入れるきっかけになった | 116(50.0) |
| 受け入れるまでには時間がかかったが、きっかけにはなった | 26(11.2) |
| 受け入れるきっかけにはならなかった(指摘されただけのような気がする) | 72(31.0) |
| 発達障害を知る、情報交換の機会になった | 7(3.0) |
| 以前から診断され、フォローされているため変わらない | 8(3.4) |
| その他 | 2(0.9) |
| 未回答 | 1(0.4) |

V. 考 察

1. 早期発見・早期支援についての課題

保健師の保護者支援について

5歳児健診が、子どもの発達障害の早期発見・早期支援に結びつくかどうかについては、5歳児健診でちょっと気になる子として、巡回相談や医療機関につながったケースは、健診受診者全体の17.3%である。また、健診のスクリーニング率としては、健診をきっかけに医療機関を受診し、ADHD/LDやアスペルガー、また言語上の問題を指摘されたケースを合わせると30名(4.6%)であり、これは、通常の健診スクリーニング率程度であると考えられる。

この中で巡回相談や医療機関受診の指示に保護者が従ったかについては、医療機関受診の指示に83.6%が従ったと結果で示された。以上のことから、健診時に支援が必要と判断されたケースに対しては、早期支援につながったと考える。

また5歳児健診結果が、医療機関受診を指示された群においては、90.4%が結果的に指示通り受診した。このことから、「医療機関受診」という指示に対しては、保護者は従う傾向にあることがわかる。

一方、医療機関受診の指示に対し、受診しなかった群では、「健診時の医師の説明に納得できなかった」、「子どものことは保護者である自分が一番わかっている」、「批判されたように感じた」などの具体的内容から、5歳児健診で保護者が捉えた保健師の関わり方としては、「批判された」、「指摘された」という視点について考えられる。

また、「医療機関受診」の指示に従った理由の中に、「よくわからないが、子どものためになるならば」という回答があった。

このことから、保健師や医師からの説明を受け止めていない保護者も「子どものためになる」との思いが支援につながる」という視点があることが考えられる。

以上のことを踏まえ、保健師の関わりについて保護者がどのように捉えるかについてはさまざまである。しかし、「子どものことは保護者である自分が一番わかっている」、「よくわからないが、子どものためになるならば」等の結果から、保護者の思いを保健師は、まず受け止める必要性が考えられる。これは、コーチングの視点であると考えられる。柳澤もコーチングによる保健指導を勧めており、コーチングの視点を考慮した

保健指導も有効ではないかと考える⁹⁾。

しかし、この調査においては、保護者が保健師の関わりについて、どのように認識したかについての意識調査であり、保護者への一方に対する調査である。

今後、保護者と保健師の双方に面接調査を実施し、保健師が黒子として保護者に関わっている部分について言語化する必要性と、それにより具体的な保健師の関わりについて有効な検証ができると考える。

2. 継続的支援システムについて

医療機関をしばらくして受診した群の具体的内容から、「医療機関受診」の指示を受け入れるまでに時間を要する保護者があることや結果としては保健師や医師の説明に納得はしていないが指示通り医療機関を受診したケースについては、保護者の思いの中に「子どものためになるならば」という思いがあるためであると考えられる。

また、子どもの発達障害を受容するきっかけになったかについては、50.0%が「受け入れるきっかけになった」という回答である。

一方、「指摘されただけのような気がする」という回答が31.0%であった。以上のことから、時間を経る中で医療機関を受診するケースもあり、保護者の心が変化することがわかる。保健師は、この心の変化を捉えられるよう継続的に関わりを持ち、経過をみていく重要性があると示唆された。

以上から早期発見・早期支援を唱えるあまりに、むやみに保護者の心配を増やさないこと⁴⁾の重要性や、健診時に子育て環境の整備や親の支援に重点を置いたものにシフトしてきている¹⁰⁾ことから、保健師の関わりとして、保護者の心の変化を捉え、それに合わせた支援ができるような関わりが継続支援に有用であると考えられる。

さらに、継続的な支援の具体的方法として、B市においては、児童デイサービスを、継続的支援機関として位置づけている。

児童デイサービスを利用するようになった子どもと保護者については、都筑のいう保健師の関わりについてだけでなく、保護者支援という点¹⁰⁾からも、児童デイサービスに通う中で、各専門職による支援が重要であると考えられる。しかし、今回の調査結果から、医療機関未受診者に対する具体的な支援方法については、課題として残った。

VI. 結 論

これらのことから、以下のことがわかった。

- ・ 5歳児健診が子どもの発達障害の早期発見・早期支援への有用性については、5歳児健診受診時に支援が必要と判断されたケースに対しては、その時点で必要な支援につながったのではないかと考える。
- ・ 5歳児健診時に、保健師による保護者の心の変化を見極めた関わりが重要であり、そのためには継続的な関わりが必要である。
- ・ 保護者が子どもの発達障害を受容するまでには時間がかかることから、保健師はそれを見越した関わりや支援システム構築が必要である。
- ・ 医療機関の未受診者を含めた子どもと保護者に対する包括的な具体的支援方法については、課題として残った。
- ・ 今回の調査は、保護者が保健師の関わりについてどのように認識したかについての意識調査であり、保護者への一方に対する調査である。これについては、今後、保護者と保健師の双方に面接調査を実施し、保健師が黒子として保護者に関わっている部分について言語化することで、保健師の関わりについて有効な検証ができると考える。

謝 辞

今回、ご協力をいただいたB市保健師の皆様はじめ校長会の先生方、保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本研究の一部は、科学研究費補助金若手研究(B)19791767「乳幼児健診後事後フォローの在り方に関する研究—就学支援シートの活用について—」(研究代表者：子吉知恵美)の助成を受けて行った。

また、この要旨は第15回日本特別ニーズ教育学会において発表した。

文 献

- 1) 母子保健法. 第2章 第13条.
- 2) 別府悦子. 保育園・幼稚園における「気になる子ども」の保育. 日本特別ニーズ教育学会編. テキスト特別ニーズ教育 初版, 京都市: ミネルヴァ書房, 2007: 141-148.
- 3) 辻 貴文, 田畑 治. 地域療育教室における発達障害児への早期支援に関する一考察. 愛知学院大学心身科学学部紀要 2006; 2: 27-40.
- 4) 小枝達也. 注意欠陥多動性障害と学習障害の早期発見について—鳥取県における5歳児健診の取り組みと提案—. 脳と発達 2005: 145-149.
- 5) 笹谷しげ子. 教育委員会サイドのアプローチにより始まった5歳児健診. 保健師ジャーナル 2005; 61(1): 46-47.
- 6) 下泉秀夫. 栃木県の5歳児相談, 大田原市の5歳児健診. 国際医療福祉大学紀要 2006; 11(2): 45-46.
- 7) 大六一志, 長崎 勤, 園山繁樹, 他. 5歳児軽度発達障害スクリーニング質問票作成のための予備的研究. 心身障害学研究 2006; 30: 11-23.
- 8) 笹谷しげ子, 下井節子, 米山佐代子, 他. 駒ヶ根市における5歳児健診から就学前教育への取り組み. LD研究 2007; 16(3): 282-292.
- 9) 柳澤厚生, 他. コーチングで保健指導が変わる!. 第1版 東京都: 医学書院, 2008
- 10) 都筑千景. 援助の必要性を見極める 乳幼児健診で熟練保健師が用いた看護技術. 日本看護科学学会雑誌 2004; 24(2): 3-12.

資料

あなた自身あるいはお子さんについてお伺いします。
 当てはまる数字に○をつけてください。()内はご記入ください。

設問1 子どもさんとの関係をお答えください。
 1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. その他()

設問2 あなたの性別と年齢をお答えください。
 1. 男 2. 女

設問3 あなたの年齢をお答えください。
 ()歳

設問4 5歳児健診を受けられたお子さんは何人兄弟ですか。
 ()人

設問5 5歳児健診を受けられたお子さんは何番目のお子様でしょうか。
 ()番目

設問6 5歳児健診を受けられたお子さんは保育所(園)・幼稚園には通っていましたか。通っていた場合、何歳から通っていたかもお答えください。
 1. 通っていません
 2. 保育所(園)に通っていた ()歳~ ()歳
 3. 幼稚園に通っていた ()歳~
 4. その他()

設問7 今まで、あるいは現在、子育てをしていく上で頼りにしている、あるいは相談相手となる方はどなたでしょうか。()にそれぞれご記入ください。頼りにしてよく相談する方には○、どちらでもない方には△、あまり頼っていない方には×をそれぞれご記入ください。
 () 1. 夫
 () 2. 妻
 () 3. 実家の母
 () 4. 配偶者の母
 () 5. 友人・知人
 () 6. 保育所(園)・幼稚園の先生
 () 7. 保健師
 () 8. 小学校の担任の先生
 () 9. その他()

5歳児健診について
 設問1 皆さんにお聞きします。
 5歳児健診の感想をお聞きします。近いもの1つに○をつけてください。
 1. 大変得るものがあり満足している
 2. 得るものがあつた
 3. 特に他の健診と変わらなかった
 4. 得るものはなかった
 5. 得るものは全くなかった

設問2 皆さんにお聞きします。
 5歳児健診後の結果についてお聞きします。下記の中から当てはまるもの1つに○をつけてください。
 1. 特に何も指摘されなかった
 2. 保育所・幼稚園の巡回相談を受けることになった(5歳児健診で初めて)
 3. 家庭と園で様子を見ながら必要時巡回相談を受けることになった
 4. 医療機関を受診することになった
 5. 5歳児健診以前から遊びの教室参加や巡回相談を利用していたため、そのまま継続となった
 6. その他()

設問3 設問2で1. 特に指摘は何もなかったに○をした方にお聞きします。ご家庭ではお子さんの様子が気になることはなかったでしょうか。また、小学校に入学期、気になることはないですか。
 1. 特にない
 2. ある(気になる内容:)

設問4 設問2で2. 保育所・幼稚園の巡回相談を受けることになったか3. 家庭と園で様子を見ながら必要時巡回相談を受けることになったに○がついた方にお聞きします。
 巡回相談を受けて、その後どのようにすることになったでしょうか。
 1. 遊びの教室に通うことになった
 2. 医療機関を受診することになった
 3. 巡回相談を利用しなくなった
 4. その他()

設問5 設問2で2~6に○をした方皆さんにお聞きします。5歳児健診を受診して、お子さんに対する支援に結びついたでしょうか。
 1. 早期発見・早期支援に結びついた
 2. 早期発見はしたが、早期に具体的な支援に結びつくことはなかった
 3. 特に結びつくことはなく、不満が残っている
 4. その他()

設問6 設問5で1. 早期発見・早期支援に結びついたとお答え頂いた方にお聞きします。その後、どのような支援につながったでしょうか。また保護者から見たお子さんの変化についても書きください。
 【どのような支援につながったか】
 * どのような支援につながったかつなごう支援に○をつけるか、当てはまるものがない場合はその他でご自由にお書きください。
 1. 児童ディサービスを利用するようになった
 2. 医療機関のリハビリに通うようになった
 3. ベアレントレーニングに参加するようになった
 4. 教育相談員など就学についての相談ができるようになった
 5. 入学後も学校生活についての相談が継続的にできている
 6. その他()

【保護者からみたお子さんの変化】
 * 保護者からみたお子さんの変化では何がありますか。ささいなことでも結構です。ご自身の気づきに一番近いものに○をつけるか、その他でご自由にお書きください。
 1. 落ち着きがあるようになった
 2. 保育所(園)・幼稚園でも友達との関わりが良くなったよう先生からもほめてもらえるようになった
 3. その他()

設問7 設問5で2. 早期発見はしたが、早期に具体的な支援に結びつくことはなかったに○をした方にお聞きします。どのような点で、早期支援に結びつかなかったでしょうか。ご自身の気持ちに一番近いものに○をつけるか、その他でご自由にお書きください。
 1. 思っていたほどの成果が得られなかったと感じた
 2. 指摘だけされただけで、結果として子どもの様子は変わらなかったように感じた
 3. その他()

設問8 設問5で3. 特に結びつくことはなく、不満が残っていると答えた方にお聞きします。どのような点で不満が残っているのか、ささいなことでも結構です。ご自身の気持ちに一番近いものに○をつけるか、その他でご自由にお書きください。
 1. 思っていたほどの成果が得られなかったと感じた
 2. 指摘だけされただけで、結果として子どもの様子は変わらなかったように感じた
 3. その他()

設問9 設問2で4. 医療機関を受診することになったに○がついた方にお聞きします。
 【受診の有無】
 * 指示通り医療機関を受診されたでしょうか。
 1. 指示通り受診した 2. 指示通り受診しなかった
 3. しばらくは指示に従わなかったが、しばらくして受診した
 4. その他()

【受診しなかった理由】
 内の質問で2. 指示通り受診しなかった方にお聞きします。
 * なぜ受診しなかったのでしょうか。ご自身の気持ちに一番近いものに○をつけるか、その他でご自由にお書きください。
 1. 医師の説明に納得しなかった
 2. 子どものことは保護者である自分が一番よくわかっているため受診する必要がないと思ったから
 3. 批判されたように感じたから
 4. 受診した方がいいと思ったが、自分の中で受け入れられるまでに時間がかかると感じたから
 5. その他()

内の質問で3. しばらく経って受診した方にお聞きします。
 * しばらく時間が経つ間にどのような考えの変化があったでしょうか。ご自身の気持ちに一番近いものに○をつけるか、その他でご自由にお書きください。
 1. すぐには受け入れられなかったが、落ち着いたら子どものためにも受診しようと考えた
 2. 最初は子どもの個性だと思い、受け入れられなかったが、一度受診しておいた方がいいと考えるようになった
 3. その他()

【受診した理由】

{ }内の質問で1. 指示通り受診した方にお聞きします。

* 指示を受けた通り受診した理由として、ご自身の気持ちに一番近いものに○をつけるか、その他でご自由にお書きください。

1. 医師の説明に納得できたから
2. 日頃から子どもの発達に関して心配していたから
3. 保育所（園）や幼稚園の先生からも子どもの発達に関して言われることがあり気になっていたから
4. よくわからなかったが、子どものために受診した方がいいなら受診しようと考えたから
5. その他（ ）

【受診をした結果について】

{ }内の質問で1. 指示通り受診したと3. しばらく経って受診した方にお聞きします。

* 受診をした結果、医師からどのような説明を受けたでしょうか。

ご自由にお書きください。その後どのようにするか、また診断名が**診断名**もご記入ください。

設問 10 皆さんにお聞きします。

5歳児健診の実施によって、子どもの何らかの発達障害について受け入れるきっかけになったかどうかお答えください。

1. 受け入れるきっかけになった
2. 受け入れまでには時間がかかったが、きっかけにはなった
3. 受け入れるきっかけにはならなかった（指摘されただけのような気がする）
4. その他（ ）
5. 特に指摘はなかった

設問 11 皆さんにお聞きします。

発達障害と聞くことのようなイメージがありますか。イメージに一番近いもの1つに○をつけるか、その他でご自由にお書きください。

1. 重い障害のイメージがある
2. 重い障害よりは軽いイメージがあるが「障害」というイメージがある
3. 子どもの保護者だったら責任を感じる
4. 治療すれば治るというイメージがある
5. イメージがわからない（わからない）
6. 親の育て方や関わりが悪い
7. 遺伝的な病気だと感じ、治らないイメージがある
8. その他（ ）

設問 12 皆さんにお聞きします。

発達障害について聞く機会はあるでしょうか。

今後、発達障害について、もっと、子どもや保護者の皆様をはじめ、すべての方々に知って頂くために期待することがあればお教えください。ご自身の気持ちに一番近いものに○をつけるか、その他でご自由にお書きください。さらに具体的アイデアがあったら()にお書きください。

1. 5歳児健診時に講義を受ける
 2. 保育所（園）・幼稚園や小学校などで子ども向けや保護者向けにパンフレットを配布
 3. 発達障害についてわかりやすいドラマや特集でテレビを通して
 4. 小学校などで子ども対象や保護者対象に講演会を開催する
 5. 地域における講演会
 6. その他（ ）
- *具体的アイデア（ ）